

青森県現代俳句協会会報

令和4年度青森県現代俳句協会総会

一昨年からの新型コロナウイルス感染が収まらないことから、今年度の総会も通信制で行うこととしました。

議案を全会員に郵送し、5月14日付で書面表決を受け、これを総会といたしました。

概略は次の通りです。

第1号議案は令和3年度の事業報告について、第2号議案は令和3年度収支決算ついてでした。また、第3号議案は令和4年度事業計画(案)について、第4号議案は令和4年度収支予算(案)についてでした。

なお、協会の会計監査は4月29日に今監事をお願いし、適正との評をいただきました。

第5号議案は役員改選についてです。本協会の規約に基づく今年度役員改選になることから、4月29日の役員会で案を作成し、総会に諮りました。新役員は以下のとおりです。

○新役員(令和4年～6年度)

顧問…竹鼻瑠璃男、田村正義、牧ひろし、
後藤岑生、南美智子
会長…千葉芳醇

令和3年度収支決算

1 収入	447,738円
繰越金	68,538円
会費	73,000円
本部交付金	55,800円
年鑑参加費	71,000円
青い森大会	169,000円
雑収入	10,400円
2 支出	345,747円
運営費	17,942円
事業費	322,805円
予備費	5,000円

令和4年度収支予算

1 収入	486,000円
繰越金	101,991円
会費	80,000円
本部交付金	60,000円
年鑑参加費	70,000円
青い森大会	173,000円
雑収入	1,009円
2 支出	486,000円
運営費	51,000円
事業費	425,000円
予備費	10,000円

副会長…大瀬響史(事務局長兼務及び年鑑担当)、川村英幸(事務局担当)

松宮梗子(青い森俳句大会担当)

事務局次長…成田唯央

幹事…浅利康衛、橋川まもる、坂本幽弦、坂本秋霜、関礼子、中村しおん、成田唯央、森下睦子、山谷文子

監事…清水山査子、今留里子

2022年版青森県現代俳句年鑑賞

今回は5回目となります。年鑑には会員の作品71編が掲載されていますが、本賞の対象となった作品は、顧問、会長、副会長、既受賞者を除く61編となりました。

選考委員は顧問が務めることとなっていますが、今回は三役も参加して選考しました。第一次選考では2人以上の委員の推薦のあった16編が最終選考の候補作に上がりました。

3点 葛西秋遊子 坂本吟遊 鈴木とまと

関礼子 松宮梗子 森下睦子 雪消ミ

2点 浅利康衛 阿保子星 新谷のらねこ 大

和湖愛 小田桐妙女 鎌田美正子 佐藤

いく子 中村しおん 渡辺芳文

最終選考の結果は次のとおりになりました。

第1席 13点

「鬼やんま」 五所川原市 松宮梗子

第2席 12点 「自堕落」 弘前市 雪消ミスミ

第3席 9点 「又ド画」 十和田市 中村しおん

第4席 8点 「海峡の家」 五所川原市 森下睦子

第5席 7点 「西行忌」 弘前市 佐藤いく子



受賞者・松宮さん(左)

第15回青い森県民俳句大会

昨年に続き新型コロナウイルス感染の影響で会場での大会が困難となり、兼題だけの大会にせざるを得なくなりましたが、皆様のご理解とご協力により参加者が173名になりました。結果は次のとおりです。

【成績】

- ①知事賞・工藤邦子(青森市)、②県議会議長賞・敦賀恵子(青森市)、③青森市長賞・吉田千嘉子(八戸市)、④青森市議会議長賞・佃正子(十和田市)、⑤県俳句懇話会会長賞・くどうひろこ(板柳町)、⑥中澤玲子(弘前市)、⑦鈴木志美恵(五戸町)、⑧高野万津江(弘前市)、⑨丹野慶子(平川市)、⑩齊藤君子(青森市)、⑪赤坂雪洲(青森市)、⑫蒲田幸子(深浦町)、⑬関礼子(青森市)、⑭中村しおん(十和田市)、⑮松宮梗子(五所川原市)

・兼題A賞…吉田千嘉子
・兼題B賞…高野万津江
・兼題C賞…中澤 玲子

兼題A(剪定) 小野 寿子選

天位 剪定の音をちこちに津軽かな
地位 岩木嶺を大きく傾げ剪定す
人位 剪定終え枝積み上げて夕の星
秀逸 剪定の小気味よき音青空に
剪定の枝嵩なしてくれなづむ
剪定を了へ古い松の男ぶり
父を師に握る剪定缺かな
剪定の畑の向かふにさらに畑
剪定の枝焼き香るりんご園

佳作 剪定の終えし津軽の空広し
剪定や枝とぶ先に津軽富士
剪定の切口鮮ら朝日差す
剪定の細き枝にも音のあり
山鳩に口笛合はず剪定夫
小気味良き音や剪定日和なる
遠景は雪の甲田嶺剪定す
口下手の世渡り下手や剪定す
父母の声透きとほる剪定後
一巡りしては見上げて剪定す
剪定にもう父の来ぬ山の畑くどうひろこ
剪定の見様見真似や父の庭
剪定終へ夕日の座る木瘤かな
白無垢の岩木嶺またぎ剪定す

金田 一子選

天位 剪定や松の未来を描きつつ
地位 黒めがねして悪漢のごと剪定す
人位 缺より眼が先に剪定す
秀逸 親方の口も手も出て剪定す
剪定終え肺は香気に満ちみちて
剪定の眼は先の先を読み
剪定枝スモークハムの出来る午後
わがものと思へば剪定大胆に
まだ父の余力とみたり剪定音
貰ひ来し剪定の枝咲くを待つ

佳作 剪定の済めば日射しの踊り出す
剪定やとかくうるさい妻の指示
剪定を了へ古い松の男ぶり
剪定の日和や光る大缺
掛合ひのやうに剪定する親子
剪定も公務の仕事推進課
小気味良き音や剪定日和なる
跡継ぎを見る目細めて剪定夫
剪定や講師に耳を傾けて
一日が三日になりぬ剪定夫
剪定の男の顔はいつも影

千葉 禮子
野呂みちる
南 美智子
中村しおん
大澤 せい
金田一子
布施 協一
畑中とほる
越後 則子
草野 力丸
鈴木志美恵
比内 順子
萬年 和子
岩瀬 草子
草野 力丸
齊藤 君子
敦賀 恵子
秋野かをり
水木 和子
丹野 慶子
鈴木とまと
中谷 恭子
小野 寿子
関 礼子
佃 正子
樋口 京子
南 美智子
和田たかし
加藤健一郎
蝦名 がこ
筑田まさ子
吉田千嘉子
小林 とみ
赤沼 淑子
畠山 容子
田村 正義選
若造りの姉さんかぶり剪定す
天位 剪定や枝とぶ先に津軽富士
地位 剪定の男の顔はいつも影
人位 剪定の済みし枝々いきいきと
秀逸 剪定や祖父の形見の庭に風
岩木嶺を大きく傾げ剪定す
風のごゑ日のごゑ聞きて剪定す郡川
剪定終へ夕日の座る木瘤かな
白無垢の岩木嶺またぎ剪定す
剪定や遠景は音持たぬもの
剪定の小気味よき音青空に
剪定や庭師の声の筒抜けに
剪定の枝弾力を失はず
湾の色日毎濃くなり剪定す
小気味良き音や剪定日和なる
遠景は雪の甲田嶺剪定す
剪定の畑の向かふにさらに畑
剪定終え枝積み上げて夕の星
地下足袋の指の踏ん張る剪定夫
剪定や空の広さを取り戻す
剪定の音をちこちに津軽かな
剪定の畑に昼餉の火を熾す
剪定の梯子畳みて又掛けて
残雪に剪定の枝重なりて

森下 睦子選

天位 青空に梯子立てかけ剪定す
地位 生きさまは未だ変えれず剪定す
人位 小気味良き音や剪定日和なる
秀逸 親方の口も手も出て剪定す
剪定枝集めお山を仰ぎけり
剪定や目覚めはじめの大津軽
山鳩に口笛合はず剪定夫
八十路なる父の剪定見本とす
剪定やとかくうるさい妻の指示
剪定や庭師の声の筒抜けに
剪定の梯子ゆすつて確かめる

木村 秋湖選
天位 遠景は雪の甲田嶺剪定す
地位 それぞれの樹勢読み取り剪定す須郷
人位 剪定の行き届きたる城址かな
秀逸 剪定の眼は先の先を読み
剪定や目覚めはじめの大津軽
父を師に握る剪定缺かな
剪定を終へし公園日差し中
剪定の済めば日射しの踊り出す佃
剪定や祖父の形見の庭に風

三野宮照枝
権太
鎌田 限
丹野 慶子
馬場 裕子
永倉 みつ
秋元エミ子
正子
田中 翠声

中島 五郎
稲部天津子
吉田千嘉子
秋野かをり
笹原 郁子
馬場 裕子
後藤 朋子
稲場 暁子
樋口 京子
工藤 邦子
高森ましら

遠景は雪の甲田嶺剪定す 三野宮照枝
跡継ぎを見る目細めて剪定夫 小林 とみ
剪定夫話しの好きな同級生 江渡永見子
口下手の世渡り下手や剪定す 木村あさ子
切り口の焼菓子色に剪定樹 櫛引 麗子
剪定終へ夕日の座る木瘤かな 松宮 梗子
剪定や借景の山近づきぬ 宮川 暢子
剪定の梯子畳みて又掛けて 比内 順子
身を反し熟練の眼で剪定す 小向 萩月
剪定の枝に雀のすぐ馴染み 小泉 静子
剪定の林檎畑より白けむり 田端 千鼓
相棒のラジオと歌ふ剪定夫 佐藤 摩季

渡邊 寂隆選

天位 生きざまは未だ変えれず剪定す稲部天津子
地位 掛合ひのやうに剪定する親子 蝦名 がこ
人位 剪定の無口なれどもはかどらはず田村 芳陽
秀逸 口下手の世渡り下手や剪定す 木村あさ子
わんぱくの余所行きのごと剪定す 長尾 青竜
剪定の見様見真似や父の庭 木村 栄子
わがものと思へば剪定大胆に 中谷 恭子
小気味良き音や剪定日和なる 吉田千嘉子

佳作 剪定の枝焼き香るりんご園 古 葉
親方の口も手も出て剪定す 秋野かをり
剪定の小気味よき音青空に 野呂みちる
剪定のためらひ傷のありにけり 木田多聞天
剪定や庭師の声の筒抜けに 工藤 邦子
剪定や松の未来を描きつつ 草野 力丸
跡継ぎを見る目細めて剪定夫 小林 とみ
剪定の行き届きたる城址かな 鎌田 限
折れ枝の剪定まどふ花芽かな 幸林 清栄
剪定にもう父の来ぬ山の畑くどうひるこ 清水 雪江
剪定の伐り口の音丸く飛び 鈴木 操
日本一願ひ剪定せしりんご 成田 きみ
剪定の指示を頼みの軍手かな 盛 弘子
錆落とす父の遺愛の剪定鋏 佐藤 摩季
相棒のラジオと歌ふ剪定夫 佐藤 摩季

兼題 B (若布) 大瀬 響史選
天位 色を食い香りを食うて若芽汁 小出登志子

地位 若布茹で海の青より青濃くし 佃 正子
人位 海峡に異国艦隊若布干す 赤坂 雪洲
秀逸 乾若布社会参加の袋づめ 秋庭善知鳥
若布津波の浜が眼裏に 伊藤ほうはく
駐在に赴任初日の新若布 木村 幸子
新若布よく売れ被災の道の駅 大川 恵子
湯にひたし若布の叫ぶ潮の色 後藤 岑生
若布汁たちまち碧き海となり 蒲田 幸子
佳作 さあ今朝も若布酢物で凜と生く秋野かをり
茹でられし若布が海を語りだす高野万津江
若布干す渚に近き太宰の碑 牧 ひろし
明暗の変わる刹那や新わかめ 加藤健一郎
職を辞す清しき朝や若布汁 竹浪 誠也
腰張つて女あやつる若布鉤 高森ましら
三陸の届く若布に漁師の名 秋谷美智子
漁師町釣町ありし若布干す 鈴木とまと
若布船波より低くもどり来し 齊藤 君子
手鏡の上目づかいや若布汁 長尾 青竜
海と地の恵み溶け合ふ若布汁 新井山雅行
浦人の日の香潮の香若布の香 木立 邦子
母の荷にいつも小袋塩若布 小泉 静子
黒髪をひとつに束ね若布干す 佐藤 摩季

草野 力丸選
天位 生臭き海を引き摺り若布干す 敦賀 恵子
地位 ゆらゆらのひかりは言葉若布寄す 松宮 梗子
人位 若布刈竿父祖伝来のにぎり艶 金田一子
秀逸 片足で櫂を操る若布刈舟 和田たかし
明暗の変わる刹那や新わかめ 加藤健一郎
乾くほど音の澄みゆく若布かな松橋喜世美
他人めく人傍らに若布干す 田村 芳陽
若布洗ふ目筈に水を遊ばせて 佐藤 霜魚
若布干す浜の番屋に風集め 長利 冬道
若布汁たちまち碧き海となり 蒲田 幸子
茹でられし若布が海を語りだす高野万津江
解禁日浜も護岸も干し若布 野呂みちる
潮騒の広がる厨新わかめ 蒲田 吟竜
若布汁津波の浜が眼裏に 伊藤ほうはく
復興の浜に広がる若布の香 工藤 邦子

関 礼子選

天位 震災の海に今年の若布生ふ 石郷岡芽里
地位 若布汁たちまち碧き海となり 蒲田 幸子
人位 復興の浜に広がる若布の香 工藤 邦子
秀逸 廃屋の屋根まで若布干されおり須藤千和子
干す若布風のかたちと陽の匂い明才地禮子
朝市に磯の香零る新若布 清野さくら
湯通しの真みどりを食ぶ新若布杉本喜和子
袷月や軒端つたひの干若布 鈴木志美恵
練櫂の巧みに老いの若布刈 森内 勇治
若布取り小船出揃ふ朝まだき 佐藤いく子
解禁日浜も護岸も干し若布 野呂みちる
釜ゆでの若布一瞬深みどり 中島 五郎
片足で櫂を操る若布刈舟 和田たかし
若布刈竿父祖伝来のにぎり艶 金田一子
骨太の老いの手むんずと引く若布 蝦名 がこ
干し若布祖母の晴れ着の帯のごとし橘川まもる
砂に干す蟹がほまちの若布かな吉田千嘉子
湯を潜りさつと若布のみどり立つ 山田のぶ子
若布刈る潮の満ち引き知る漁師 佐々木朴花
反物のやうな長さよ若布干す 畠山 容子
新若布よく売れ被災の道の駅 大川 恵子
風の浜孫子揃ふて若布乾す 白戸 星央
潮焼けの若布竿曳く老夫かな 興村 きわ

牧 ひろし選
天位 若布干す浜の番屋に風集め 長利 冬道
地位 茹でられし若布が海を語りだす 高野万津江
人位 若布茹で海の青より青濃くし 佃 正子
秀逸 若布汁たちまち碧き海となり 蒲田 幸子
廃屋の屋根まで若布干されおり 須藤千和子

朝市に磯の香零る新若布 清野さくら
湯の中へおとす若布の海の色 秋元エミ子
三陸の若布の言霊あなかしこ 千葉芳醇
灯台の足をくすぐり若布刈る 中村しおん
復興の浜に広がる若布の香 工藤 邦子

山谷 文子選

外つ国の戦話しや若布干す 今田とみを
袈月や軒端づたひの干若布 鈴木志美恵
潮焼けの若布竿曳く老夫かな 興村 きわ
津波禍の残る砂地や若布干す 田端 千鼓

井戸水を音させて汲む弥生尽 三橋 聖
災禍の世ひととき癒やす桜かな村木 謙二
くびれなき身に纏ひたる春袴 松野千佳子
ぼかぼかと天を鏡に咲くさくら新山 魏一
太鼓橋渡り切る母風光る 赤坂 雪洲
意気込んで風を捌くや鯉のぼり 橘川まもる
訪客の他愛無きこと春うらら 葛西 行雄
春蘭を活けて夫婦の理髪店 竹ヶ原陽子
主婦といふ括りぬけたき春の蝶佐々木寿子
耳うとき母に指さす百千鳥 木村あさ子
酒蒸しは芦崎湾の浅蜷かな 戸川美重子
湯の街にポストを探す日永かな畠山 容子
存らへて追憶のなか昭和の日 千葉すみれ
春耕す声の遠ち近ち畑日和 興村 きわ

海峽に異国艦隊若布干す 赤坂 雪洲
三陸の風着て親子若布売る 山口一茶子
亡夫取りて七里長浜若布なり 尾野 久子
瓦礫なき海甦る若布刈竿 くだうひろこ
新若布よく売れ被災の道の駅 大川 恵子
荷を解けば袈月の香の干若布 森下 睦子
干し若布太平洋の風に乗る 三浦 成子
袈月や軒端づたひの干若布 鈴木志美恵
浦人の日の香潮の香若布の香 木立 邦子
味噌汁にふかみどりなる若布かな 清水山査子
脛白く流れ若布を拾ひをり 萬年 和子
潮焼けの若布竿曳く老夫かな 興村 きわ
湯にひたし若布の叫ぶ潮の色 後藤 岑生

天位 茹でられし若布が海を語りだす 高野万津江
地位 若布干す浜の番屋に風集め 長利 冬道
人位 職を辞す清しき朝や若布汁 竹浪 誠也
秀逸 復興の浜に広がる若布の香 工藤 邦子
塩水の粒となるまで若布干す 川村 英幸
山里の辻に荷をとく若布売り 中谷 恭子
袈月や軒端づたひの干若布 鈴木志美恵
黒々と若布したたる魚籠の中 中村 洋子
ここだけの話し弾ませ若布干 樋口 京子
潮騒の広がる厨新わかめ 蒲田 吟竜
片足で櫂を操る若布刈舟 和田たかし
下北の磯を賑はす新若布 村木 謙二
陸奥湾の機嫌よき風若布干す 丹野 慶子
三陸の波きらきらと若布干す 桜庭 恵
朝市に磯の香零る新若布 清野さくら
沖合に傾ぐ磯船若布刈 永倉 みつ
津波禍の話をかこむ若布汁 田村 正義
青々と碗の花なる若布かな 小野いるま
海猫の声の真下に若布刈る 郡川 宏一
海と地の恵み溶け合ふ若布汁 新井山雅行
三陸の若布づくしの夕餉かな 竹浪 幸子
無沙汰詫び三陸若布届きけり 小林 五月
汁椀に潮の香ゆらり新若布 田中 三桃

高森ましら選

天位 起立礼指の先まで入学す 敦賀 恵子
地位 灯台と海を見に行く建国日 三浦 成子
人位 本丸の監視カメラも花見かな 竹浪 誠也
秀逸 春の山下り来て言葉多かりき 増田 信雄
春の山下り来て言葉多かりき 増田 信雄
寅年の誰一人なき花見酒 田村 芳陽
春キャベツ光もるとも剥がしけり 中澤 玲子
漕ぎすぎてゐるぶらんこの大人かな小田桐妙女
塵芥の日本列島花の雨 佐藤いく子
風呂の蓋簀子干したる日永かな黒田 長子
マネキンのつまらなさうな春の昼 工藤 邦子
つれづれに子は子を見遣る初桜小林 小亀
地雷無き春野の上に生きてをり坂本 幽弦
あつさりと去る春雷の心意気 澁田 紀子
水嵩の増しておるおる猫柳 後藤 朋子
コロナ禍や春には春の口紅を 成田みどり
主婦といふ括りぬけたき春の蝶佐々木寿子
ばつけ味噌もならぶ朝餉のバイキング 井手上省子

松宮 梗子選

天位 国後のすぐそこに見え若布舟 大瀬 響史
地位 海峽に異国艦隊若布干す 赤坂 雪洲
人位 家づとは海峽育ちてふ若布 宮川 暢子
秀逸 さみどりの天然若布貫ひけり 草野 力丸
砂鳴かせをなごの籠の若布かな 堰合 千恵
嫁ぎ来て週三日の若布汁 竹ヶ原陽子
荷を解けば袈月の香の干若布 森下 睦子
黒髪をひとつに束ね若布干す 佐藤 摩季
若布汁すすり貧しさなんのその小野 寿子

兼題C(当季雑詠) 坂本 幽弦選
天位 水の星の明日を信じ蝌蚪に脚 田村 正義
地位 道草と言ふ自由あり青き踏む 下山 延子
人位 遠足の翼をたたむ昼餉かな くだうひろこ
秀逸 春疾風大樹の名札ひるがへす 鈴木とまと
春塵やどつちを向ひても転換期 木村 詩織
遊学の部屋に荷を解く四月かな幸林 清栄
芽木の色鳥の歌声湖は布 藤田智恵子
春キャベツ光もるとも剥がしけり 中澤 玲子
ほつほつと地の息弾む露の臺 佃 正子

佳作

三陸の海の香りや若布汁 関 礼子
復興の浜に広がる若布の香 工藤 邦子
ひと掴み必ずまけて若布売 布施 協一
誰も採らぬ若布曳きゆく山の子ら 西村 セイ
朝市に磯の香零る新若布 清野さくら
登校をすこし遅らせ若布干す 幸林 清栄
駐在に赴任初日の新若布 木村 幸子
青々と碗の花なる若布かな 小野いるま
駐在の軒にひと竿若布干す 戸川美重子
友逝くもバケツで届く新若布 木村 栄子

天位 水の星の明日を信じ蝌蚪に脚 田村 正義
地位 道草と言ふ自由あり青き踏む 下山 延子
人位 遠足の翼をたたむ昼餉かな くだうひろこ
秀逸 春疾風大樹の名札ひるがへす 鈴木とまと
春塵やどつちを向ひても転換期 木村 詩織
遊学の部屋に荷を解く四月かな幸林 清栄
芽木の色鳥の歌声湖は布 藤田智恵子
春キャベツ光もるとも剥がしけり 中澤 玲子
ほつほつと地の息弾む露の臺 佃 正子

井戸水を音させて汲む弥生尽 三橋 聖
災禍の世ひととき癒やす桜かな村木 謙二
くびれなき身に纏ひたる春袴 松野千佳子
ぼかぼかと天を鏡に咲くさくら新山 魏一
太鼓橋渡り切る母風光る 赤坂 雪洲
意気込んで風を捌くや鯉のぼり 橘川まもる
訪客の他愛無きこと春うらら 葛西 行雄
春蘭を活けて夫婦の理髪店 竹ヶ原陽子
主婦といふ括りぬけたき春の蝶佐々木寿子
耳うとき母に指さす百千鳥 木村あさ子
酒蒸しは芦崎湾の浅蜷かな 戸川美重子
湯の街にポストを探す日永かな畠山 容子
存らへて追憶のなか昭和の日 千葉すみれ
春耕す声の遠ち近ち畑日和 興村 きわ

通分の意味も忘れて蝶の昼 土田 雅子

敦賀 恵子選

天位 この雨のうしろに春のついて来よ 丹野 慶子

地位 来たよきた影を田水に初つばめ山下 幸枝

人位 漕ぎすぎてゐるぶらんこの大人かな小田桐妙女

秀逸 野火叩き己のあしきころを小野 寿子

もの芽の立ち上がりたる戦跡笹原 郁子

地雷無き春野の上に生きてをり坂本 幽弦

遠足の翼をたたむ昼餉かなくどうひろこ

春月や何がほんとで何がうそ 今田とみを

佳作 四月馬鹿己の遺影決め兼ねて 関 礼子

ほつほつと地の息弾む露の臺 佃 正子

目玉から育つ蝌蚪の子にはたづみ伊藤ほうはく

マネキンのつまらなさうな春の昼 工藤 邦子

災禍の世ひととき癒やす桜かな 村木 謙二

ドロップの黄色桃色春待つ子 榊 せい子

海峡は漁夫の戦場桜鳥賊 畑中とほる

寅年の誰一人なき花見酒 田村 芳陽

たんぼぼや光を駆けるランドセル 稲場 暁子

雪解川歓声揚げて合流す 新井山雅行

青き踏む地中の声を聞きながら秋元エミ子

縄文の土器のつなぎ目春深し 竹浪 克夫

道草と言ふ自由あり青き踏む 下山 延子

春耕す声の遠ち近ち畑日和 興村 さわ

履く人のなき靴干す日本の芽風 実 玲

中村しおん選

天位 水温む嬰の一步に影生まる 秋谷美智子

地位 畑返す眠れるものに声かけて 齊藤 君子

人位 春荒や海一枚を撓ませて 吉田千嘉子

秀逸 四月馬鹿己の遺影決め兼ねて 関 礼子

マネキンのつまらなさうな春の昼 工藤 邦子

春蘭を活けて夫婦の理髪店 竹ヶ原陽子

遊学の部屋に荷を解く四月かな幸林 清栄

主婦といふ括りぬけたき春の蝶々木寿子

佳作 ランドセルに傷をふやして進級す 斎藤ひでを

朝練の桜トンネル駆け抜ける 秋庭善知鳥

廃校の学舎一人卒業す 樋口 京子

あつさりと去る春雷の心意気 澁田 紀子

春疾風大樹の名札ひるがへす 鈴木とまと

海峡は漁夫の戦場桜鳥賊 畑中とほる

下萌や石の地蔵の赤きべべ 小野いるま

起立礼指の先まで入学す 敦賀 恵子

湯の街にポストを探す日永かな畠山 容子

たんぼぼや光を駆けるランドセル 稲場 暁子

轉りや段差の荒き札所坂 清水 雪江

ヘルメット取れば美少女春の風山谷 文子

春キャベツ光もるとも剥がしけり 中澤 玲子

犬ふぐり立入禁止の柵の内 小向 萩月

南 美智子選

天位 あつさりと去る春雷の心意気 澁田 紀子

地位 四月馬鹿己の遺影決め兼ねて 関 礼子

人位 青き踏む地中の声を聞きながら秋元エミ子

秀逸 余生まだプラス思考や春うらら小杉 郁子

海峡は漁夫の戦場桜鳥賊 畑中とほる

制服を脱ぎし子まとふ春の風 中谷 燕子

主婦といふ括りぬけたき春の蝶々木寿子

縄文の土器のつなぎ目春深し 竹浪 克夫

佳作 ランドセルに傷をふやして進級す 斎藤ひでを

カオカオと反戦さけび鳥帰る 稲部天津子

父祖の地を頑固に守り耕せり 中村しおん

マネキンのつまらなさうな春の昼 工藤 邦子

闇空へ声響かせて鳥帰る 筑田まさ子

水嵩の増しておろおる猫柳 後藤 朋子

轉りや段差の荒き札所坂 清水 雪江

ヘルメット取れば美少女春の風山谷 文子

雪解川歓声揚げて合流す 新井山雅行

白鳥帰る今砲弾の町の上 竹浪 幸子

口笛が海峡の春連れて来る 松宮 梗子

来たよきた影を田水に初つばめ山下 幸枝

畝縄を夫と引きあふ遅日かな 鈴木志美恵

風光るジャングルジムの兄妹 小林 五月

佳作 禅林の春雨しづか石畳 岩瀬 草子

天位 起立礼指の先まで入学す 敦賀 恵子

地位 春キャベツ光もるとも剥がしけり 中澤 玲子

人位 マネキンのつまらなさうな春の昼 工藤 邦子

秀逸 ランドセルに傷をふやして進級す 斎藤ひでを

もの芽の立ち上がりたる戦跡笹原 郁子

あつさりと去る春雷の心意気 澁田 紀子

遠足の翼をたたむ昼餉かなくどうひろこ

野にあらば野の風となり鳥帰る 小泉 静子

佳作 春一番双子の犢立ち上がる 森内 勇治

ほつほつと地の息弾む露の臺 佃 正子

里山に流鶯と云ふおもてなし 木田多聞天

田の畦に小昼のお茶と蓬餅 中島 五郎

蒼穹をなだるる紅白梅薫る 山本こう女

災禍の世ひととき癒やす桜かな村木 謙二

校庭の声春光に駆けゆけり 蝦名 がこ

海峡は漁夫の戦場桜鳥賊 畑中とほる

耳うとき母に指さす百千鳥 木村あさ子

水の星の明日を信じ蝌蚪に脚 田村 正義

湯の街にポストを探す日永かな畠山 容子

たんぼぼや光を駆けるランドセル 稲場 暁子

白鳥帰る今砲弾の町の上 竹浪 幸子

灯台と海を見に行く建国日 三浦 成子

犬ふぐり立入禁止の柵の内 小向 萩月

◆今後の大会等行事予定

・第50回県懇話会十和田大会締切 6月30日

・第36回現代俳句東北大会締切 6月20日

大会 9月18日

・第40回県下深浦俳句大会(予定) 9月11日

・第62回県下五所川原俳句大会 10月16日

・第59回現代俳句全国大会 締切 8月1日

大会 11月12日

・秋の吟行互選俳句大会(未定) 10月下旬

・第42回弘前俳句大会 11月6日

発行所 青森県現代俳句協会

発行人 千葉 芳醇

〒030-0915 青森市小柳1の9の16